

地域おこし学校「こうちみませ楽舎」プレミアムクラス

第3回(9/3 実施)レポート

地域おこし学校「こうちみませ楽舎」プレミアムクラス第3回が開催されました。

今回のテーマは、「理想を語ろう～絵に描いた餅で想いを具現化へ～」です。

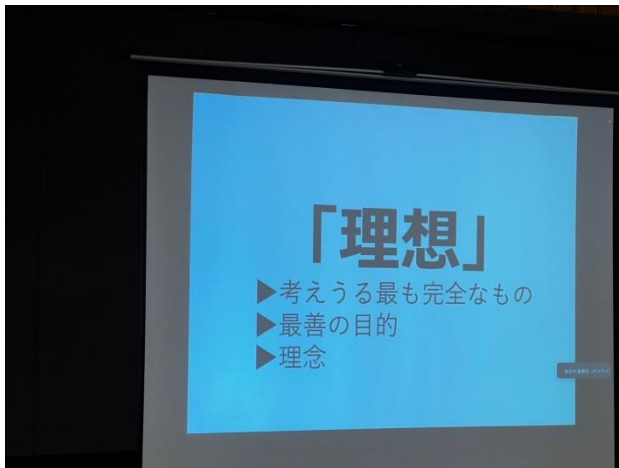
前回の授業でモヤモヤを感じて、全力で悩んでいた受講生の皆さんですが、今回は一変した内容です。

さあ、一体何が始まるのでしょうか。



◆想いや意識の変化(気づき)

今回の授業では、自身のやりたい理想をカタチにするための準備をしていきます。



スライドに映し出されたのは「理想」の辞書的な意味。

◆「理想」とは…①考える最も完全なもの ②最善の目的 ③理念

改めて意味を考えると、理想を語るには、本人の中に一定の具体的イメージが必要そうですね。果たして、受講生は今回、どんな理想を語るのでしょうか。

まずは、前回のトークフォークダンスとは違ったペアで自分のプロジェクトを語り、相手からフィードバックをもらいました。

1か月の間に考えを練って、前回書いたシートを進化させてきた受講生もいました！「前回のトークフォークダンスで、他の人の言葉を聞いて、自分ももっと具体化して考えたいと思って…」とのこと。すばらしいです。授業と授業の間をどう過ごすかで、プランの実現性がかなり変わってきそうですね。

次に、休憩も兼ねて、他の受講生のシートを見る時間を設けました。会場には、前回書いた全員のシートを貼りだしてあります。他の人のアイデアからヒントをもらったり、自分と

似た方向性の人を見つけて話しかけたりするなど、積極的な交流が見られました。

◆他者の視点を取り入れよう

次に「同じ(近い)方向性の受講生同士のグループワーク」を行いました。
グループは、以下に分かれました。

- ・観光・関係人口
- ・コミュニティづくり
- ・自然・街並み・歴史
- ・旧御豊瀬小学校活用
- ・フリーグループ



グループのメンバーと、それぞれが思い描く理想を語ります。

今回のプレミアムクラスは、「各々が描く理想を実現させるスキルを学び、実践する」もの。そのため、必ずしもグループになってプランを練る必要はありません。

しかし、他の人の異なった視点から見た意見をもらうことは大事なことです。話す中で、受講生の中に意識の変化が現れたり、出来ること／出来ないことが見えてきて、現実的な課題が浮かび上がってきたりしました。講師の吉弘氏から「ようやくスタートラインに立ちます。ここからがある意味、本番です。」と、激励をもらいます。いよいよ当クラス、山場に近づいてきました。

◆課題解決のためのロジックを考えよう

今回の授業で重要なのは、自分の考える「課題」に対し、どのように「対処法(地域活性のため、自らがやりたいこと)」を組み立てていくかの考え方です。

通常、【課題】に対しては、【対策】を考え、【効果】を期待します。しかし、単純な【課題→対策】の先に、必ずしも効果が表れるとは限りません。

もう少し丁寧にしてみると…【課題】があるなら、「なぜ現状はそうなっているのか」という、【原因】があります。原因を分析せずにいきなり【対策】を考えても、根本的な課題解決にはなりません。

また、原因分析が間違えていると効果的な【対策】に繋がりません。データなどの客観的な指標も利活用し、想定される【原因】が真実かどうか見極めることも大切です。

その上で、【対策】のための具体的な手法を考えていきます。

プレミアムクラスの受講生は、自分なりの課題意識とやりたいことを持っています。それを実現するには、今後どのように動いていくべきか。それを考えるために、先ほどの【課題→原因→対策→具体的手法→効果】の流れを意識しながら、以下の内容をロジックシートに記入しました。

- ① 課題の原因
- ② 対策
- ③ 具体的に何をやる？
- ④ 具体的にどこで、誰が誰とやる？(どこで？ 誰が？ 誰と？)

記入時間は決して短くはありませんが、受講生の集中力は途切れません。受講生によっては、その後の休み時間もずっと書き続ける人も。既に頭の中に、明確なイメージがあるのでしょう。

逆に、「いろいろ考えすぎて…何も書けない」という人も。自分自身の考える課題に、真剣に向き合っているからこそでしょう。今は答えが見えなくても考え続ければ、ふとした瞬間に、霧が晴れたようにイメージがはっきりしてくるかもしれません。

最後に、チーム内で自分の書き出したシートを発表し、他の受講生からフィードバックをもらって、本日の授業は終了です。

まず理想を書き出し、イメージを膨らませて、共有する。個人で集中する作業と、仲間から刺激をもらえる作業を繰り返すことで、少しずつ自分のイメージが固まっていきます。

一人の受講生が「地域で認知症カフェをやりたい」と言うと、「地域に空き家を持っているので、ぜひ使って」と他の受講生から申し出があったグループも。また、「他の廃校活用事例に負けるな！」を合言葉に、一致団結したグループもありました。必ずしもグループになる必要は無いため、個々人がそれぞれのプランを宣言するような形になったグループも。

結局のところ、実現のために一番大事なのは「自分自身が本気で成し遂げるつもりがあるか」ということですね。

さて、次回(第4回)のテーマは、「答えは教室にはない、現場にあるんだ」です。

これまで実際に事業を生み出してきたゲスト講師のお話を聞き、受講生自身のプラン実現に向けたイメージを膨らませていきます。

